

「日々の理科」(第1152号) 2017 (H29), -9, -1

「北極圏旅行記 2017 夏(35)」最終回

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

～8/3・4 ヘルシンキから帰国へ～

いよいよ帰国の日になってしまった。行きにヘルシンキを経由したのはわずか10日前だが、もう一カ月も二カ月も前のような、不思議な感覚に陥る。

ヘルシンキ市内観光の良い点は、狭い範囲に見所が集中していることだ。中央駅からの徒歩圏内だけでも、3時間あれば、結構見て回れる。



誰もが行くのがこの「石の教会」だろう。私は何度か入ったことがあるので、今回は外から見るだけにした。その後、街並みや博物館、港の風景、それに何軒かお店ものぞいて、中央駅に戻ることにした。



中央駅の近くにあるギフト・ショップは便利だ。ムーミン関係のおみやげを中心に、さまざまなものが手に入る。日本人の従業員もいて、買い物のことだけでなく、観光のこともいろいろと親切に教えてくれる。



棚という棚は、ムーミン関係のグッズでぎっしり。ムーミン紅茶、ムーミンバンドエイドまである。ムーミンファンには天国のようなお店だろう。

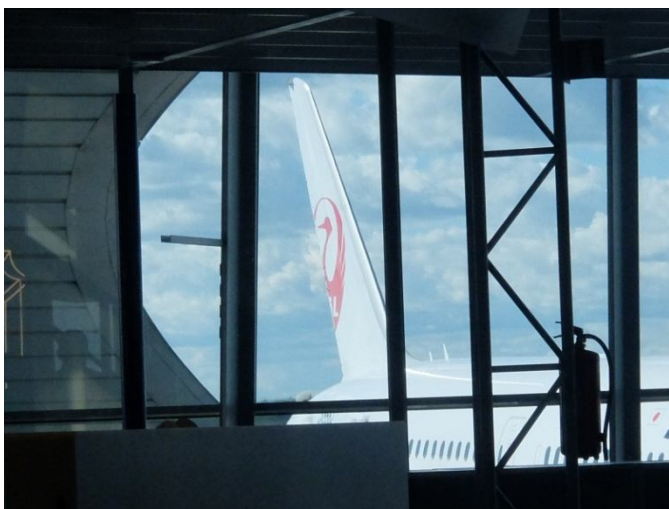


空港で買った切符は「一日乗車券」なので、市内の電車は何度でも乗り降りできる。飛行機の搭乗時刻まで少し余裕があったので、途中のNäntökää (ナントカ) という駅で「ぶらり途中下車の旅」をすることにした。市内行きの電車の車窓から見て、この付近の住宅地の風景が美しいと思ったのだ。

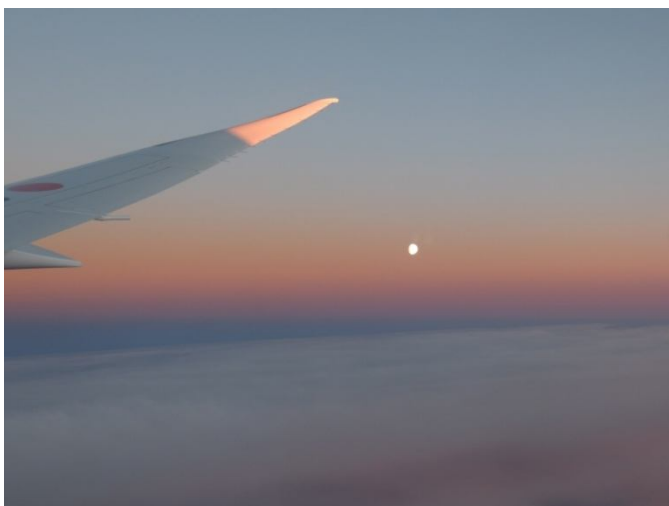




「ぶらり途中下車」の声優だった滝口順平さんなら、「まあ、何て美しい住宅地なんでしょ！」と言うにちがいない。このあたりは、ヘルシンキ郊外の普通の住宅地なのだが、高級別荘地のような街並みだった。



空港には日航機 JAL414 便が待っていた。ヘルシンキからは、日本航空とフィンエアー機が、日本への直行便を飛ばしている。成田だけでなく、羽田、名古屋、大阪、それに福岡行きの直行便路線がある。



シベリア上空から見た「地球影」「ヴィーナス・バ

ンド」それに「月」。太陽と地球と月が創り出す、成層圏直下の静かな風景だ。

ヨーロッパから日本へ向かう飛行機は、「地球の自転に逆らって」飛ぶことになる。「日の出に向かって飛ぶ」と言っても良い。従って、地方標準時の帯を何度もまたぎ、およそ 1.5 倍速で時間が経過する。しかも偏西風に助けられ、わずか 8 時間半で成田に到着する。夕方にヘルシンキを出て、8 時間半後に、翌日の昼に東京に到着できるわけだ。



ロシアの沿海州から日本海をまっすぐ横切り、最初に見える日本の国土は「佐渡島」である。地図で見る「蝶型」の島の形が、上空 3 万フィートからだと、そのまま実感できる。佐渡が見えると、機は成田に向かって下降を始める。



新潟からは雲に覆われて、地形がなかなか見えなかった。しかし、福島上空で雲の上にかすかに富士山が見えた。ああ、ここは確かに日本だ、と思った。

半年前から計画し、すべて自分たちで予約し、アレンジした北極圏旅行だった。旅行記も 35 回、70 ページにもなった。非常に充実した旅行だったと思う。